



2022年12月期

決算説明資料

木徳神糧株式会社





2022年12月期 連結業績の概況

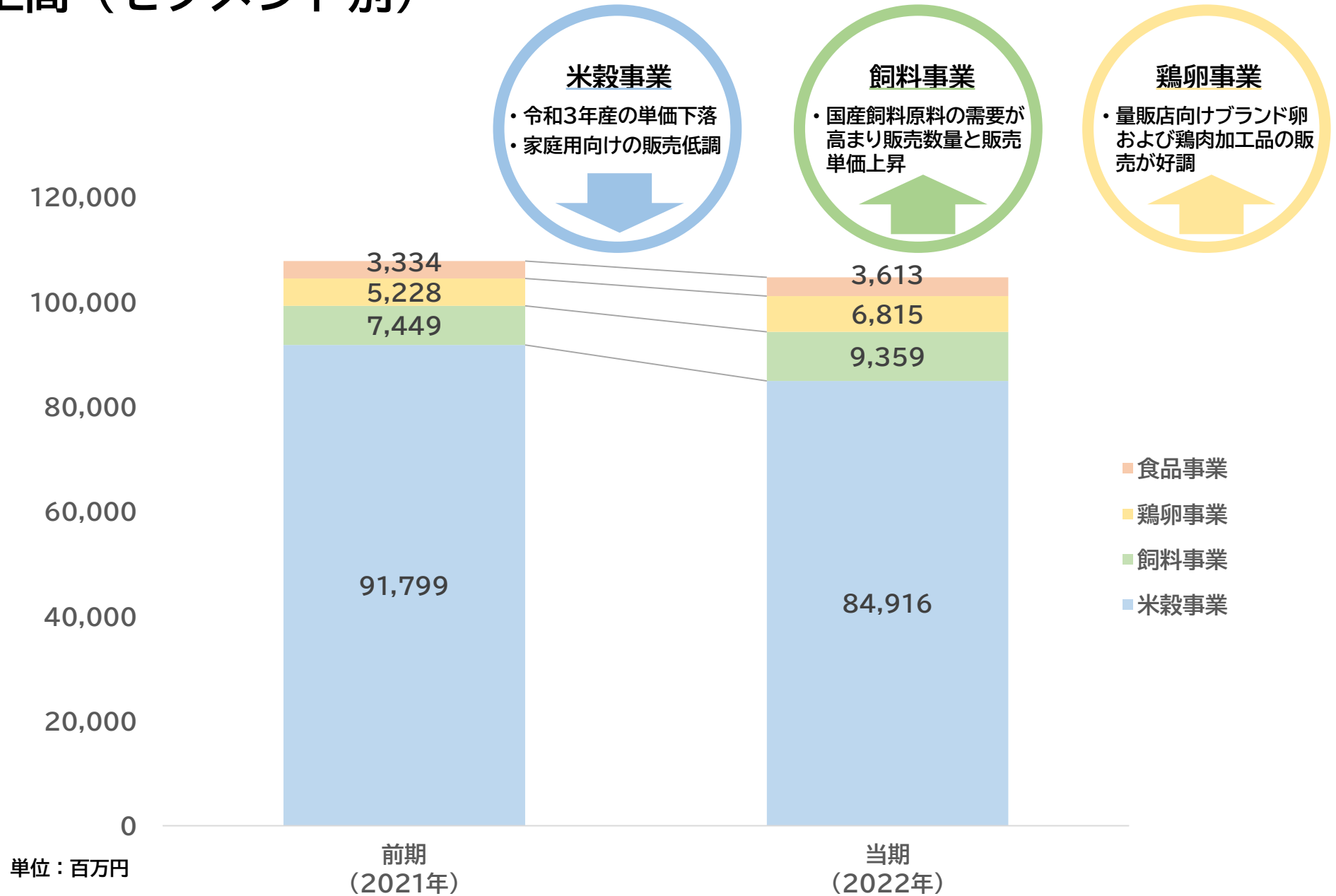
決算ハイライト (P/L)

減収・大幅増益

単位：百万円

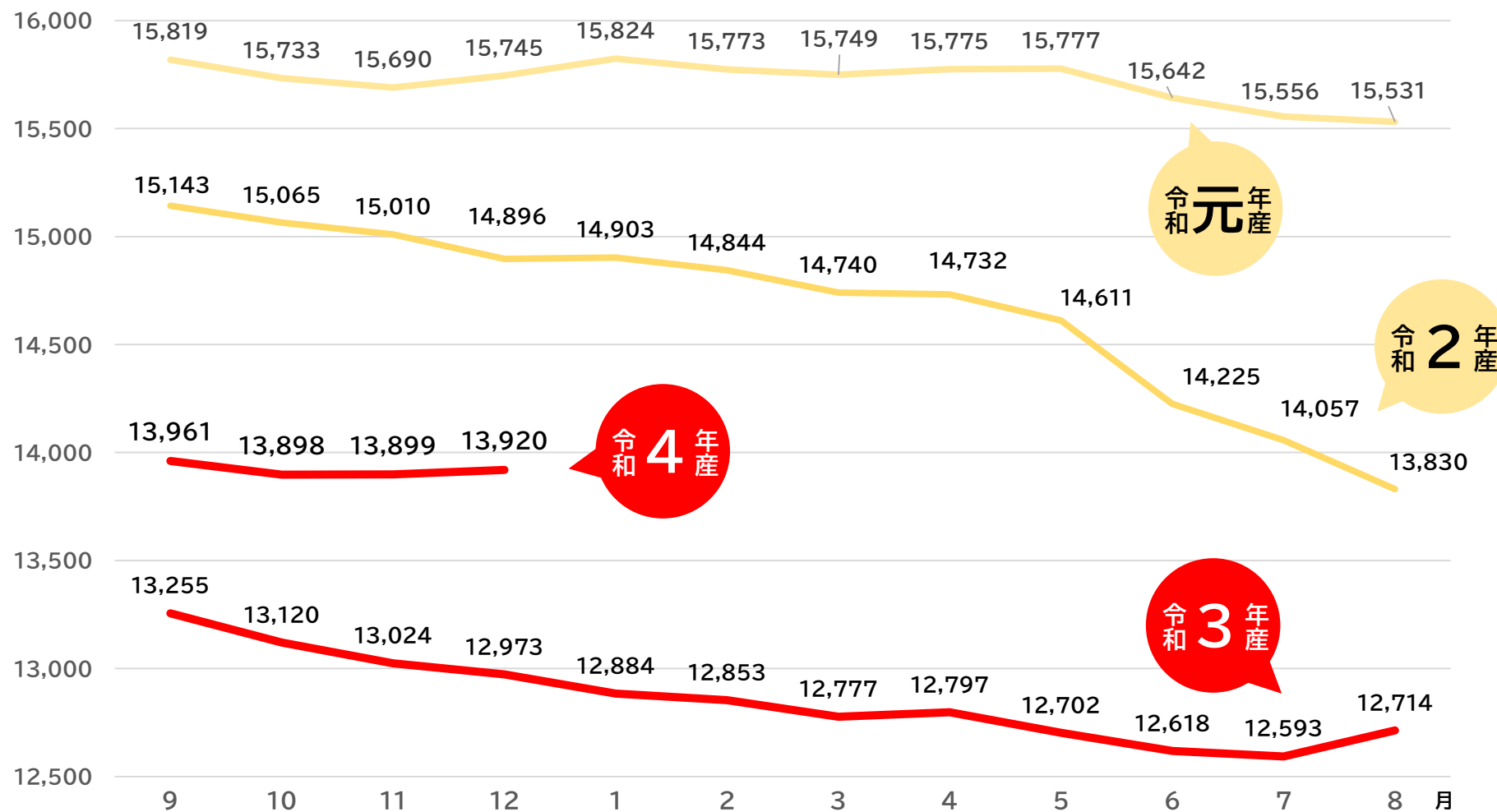
	前期 (2021年)	当期 (2022年)	増減額	前年同期比
売上高	107,812	104,704	△3,108	97.1%
売上総利益 売上比	5,974 5.5%	6,876 6.6%	902	115.1%
販売費及び一般管理費 売上比	5,448 5.1%	5,559 5.3%	111	102.0%
営業利益 売上比	526 0.5%	1,316 1.3%	790	250.2%
経常利益 売上比	614 0.6%	1,371 1.3%	757	223.3%
特別損益 売上比	0 0.0%	163 0.2%	163	-
親会社株主に帰属する 当期純利益 売上比	505 0.5%	1,038 1.0%	533	205.5%

売上高（セグメント別）



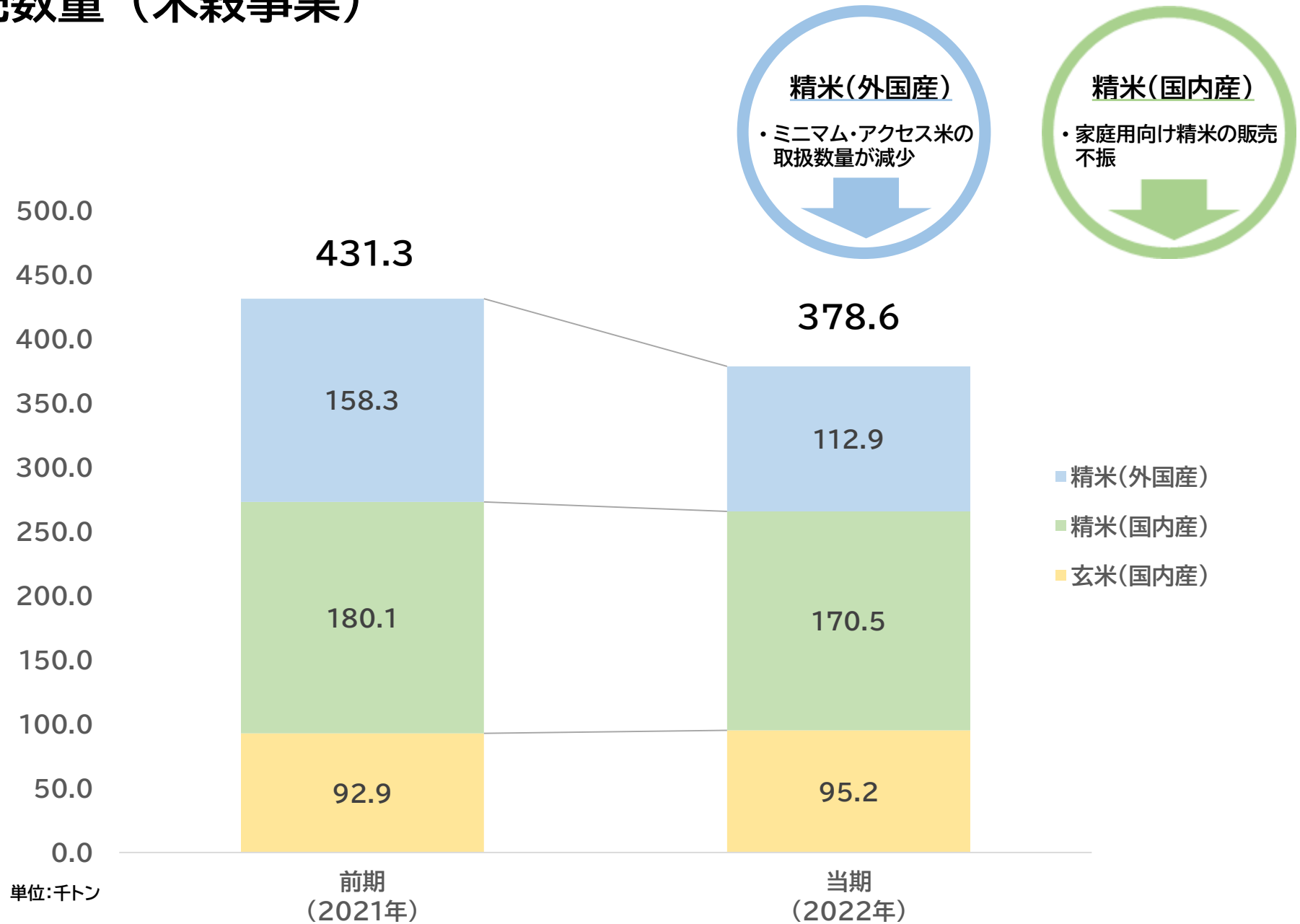
コメの相対取引価格の推移

単位:円/60kg

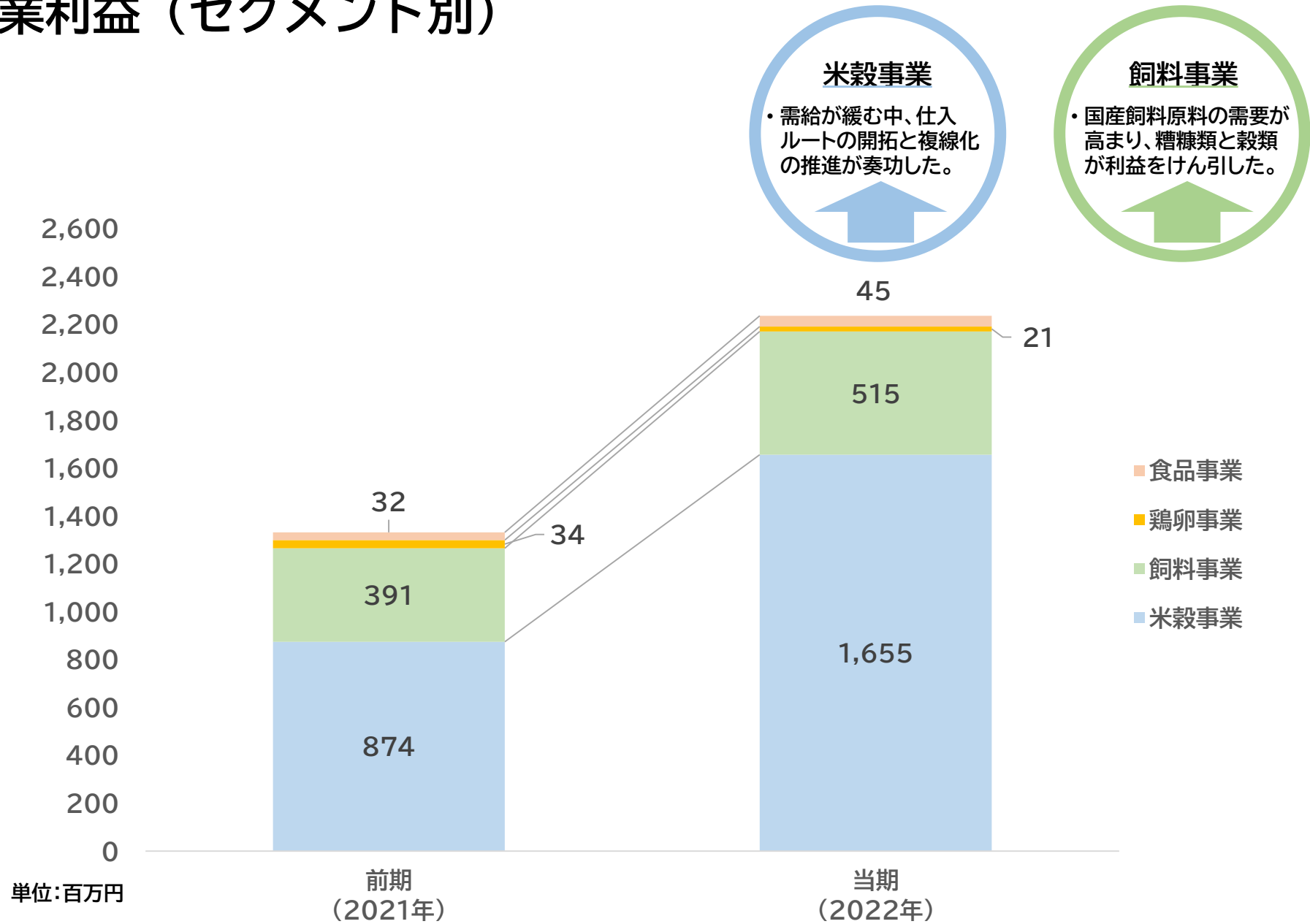


- 注: 1. 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれる。
2. 相対取引価格は全銘柄平均価格であり、産地銘柄ごとの前年産検査数量ウエイトで加重平均した価格。

販売数量（米穀事業）

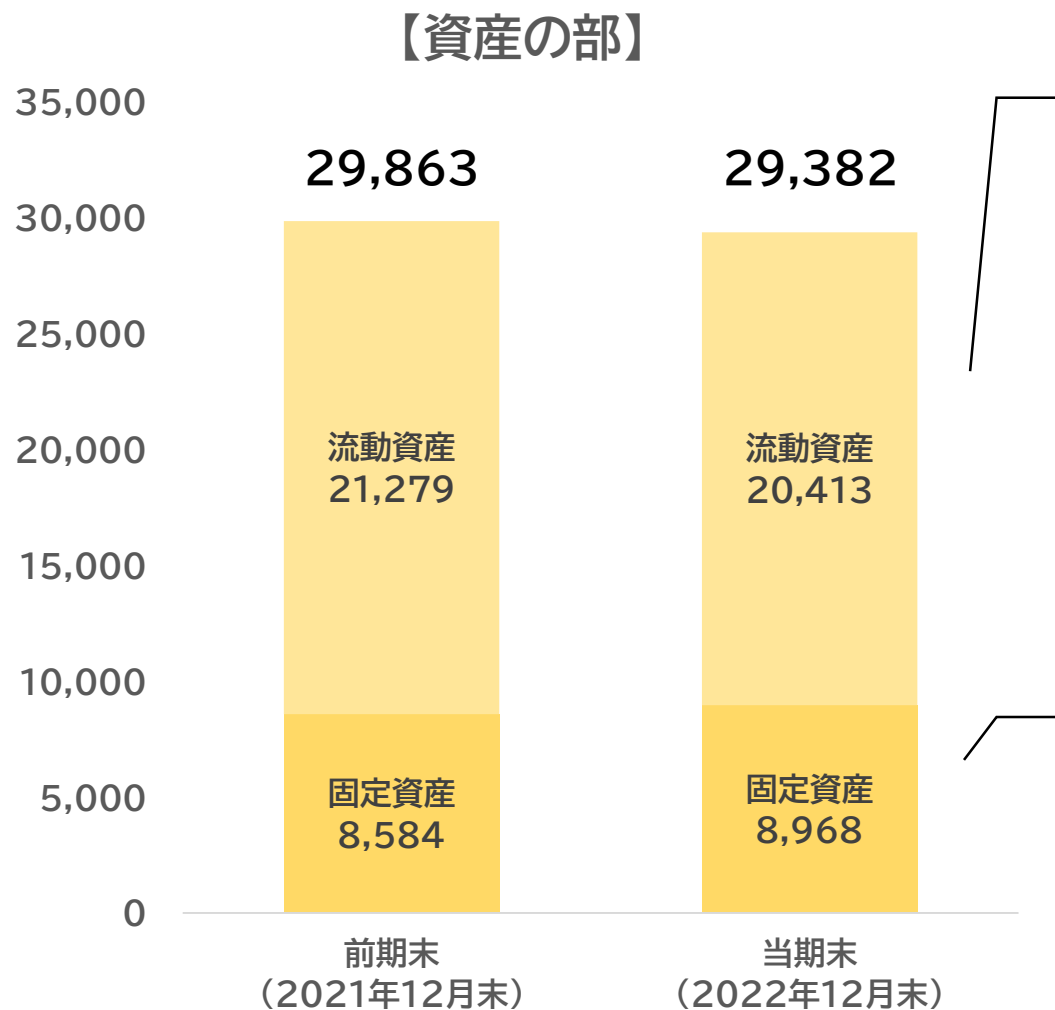


営業利益（セグメント別）



資産、負債及び純資産の状況（1）

単位：百万円



流動資産 $\Delta 866$

前渡金※ $\Delta 1,501$

たな卸資産 $\Delta 438$

現金及び預金 $+ 496$

未収入金 $+ 480$

※要因は主にミニマム・アクセス米に係る取引によるもの

固定資産 $+ 384$

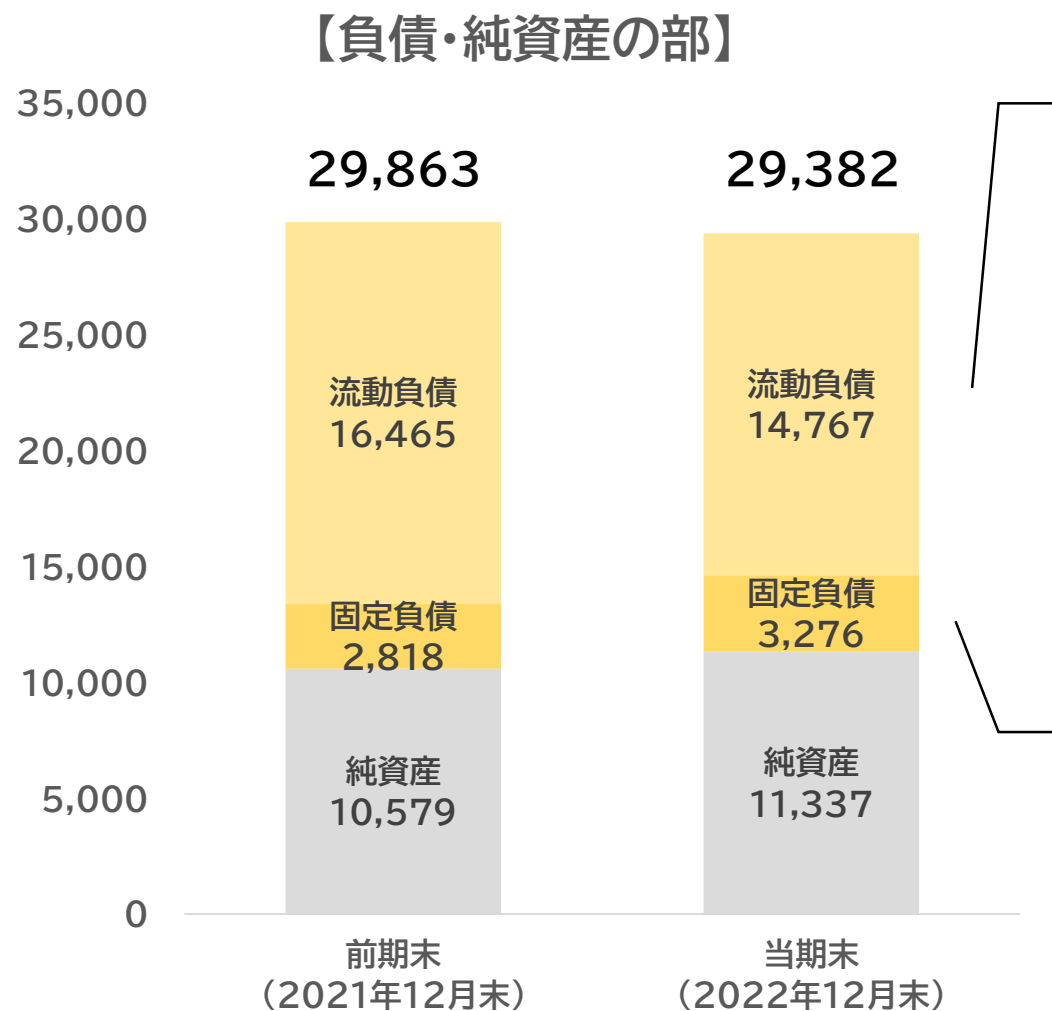
有形固定資産 $+ 276$

投資その他の資産 $+ 109$

無形固定資産 $\Delta 1$

資産、負債及び純資産の状況（2）

単位：百万円



流動負債 $\Delta 1,698$

短期借入金等(※) $\Delta 3,671$

支払手形及び買掛金 $+762$

前受金 $+493$

未払金 $+196$

(※) 1年以内返済予定の長期借入金を含む

固定負債 $+458$

長期借入金 $+570$

繰延税金負債 $\Delta 84$

決算ハイライト (B/S)

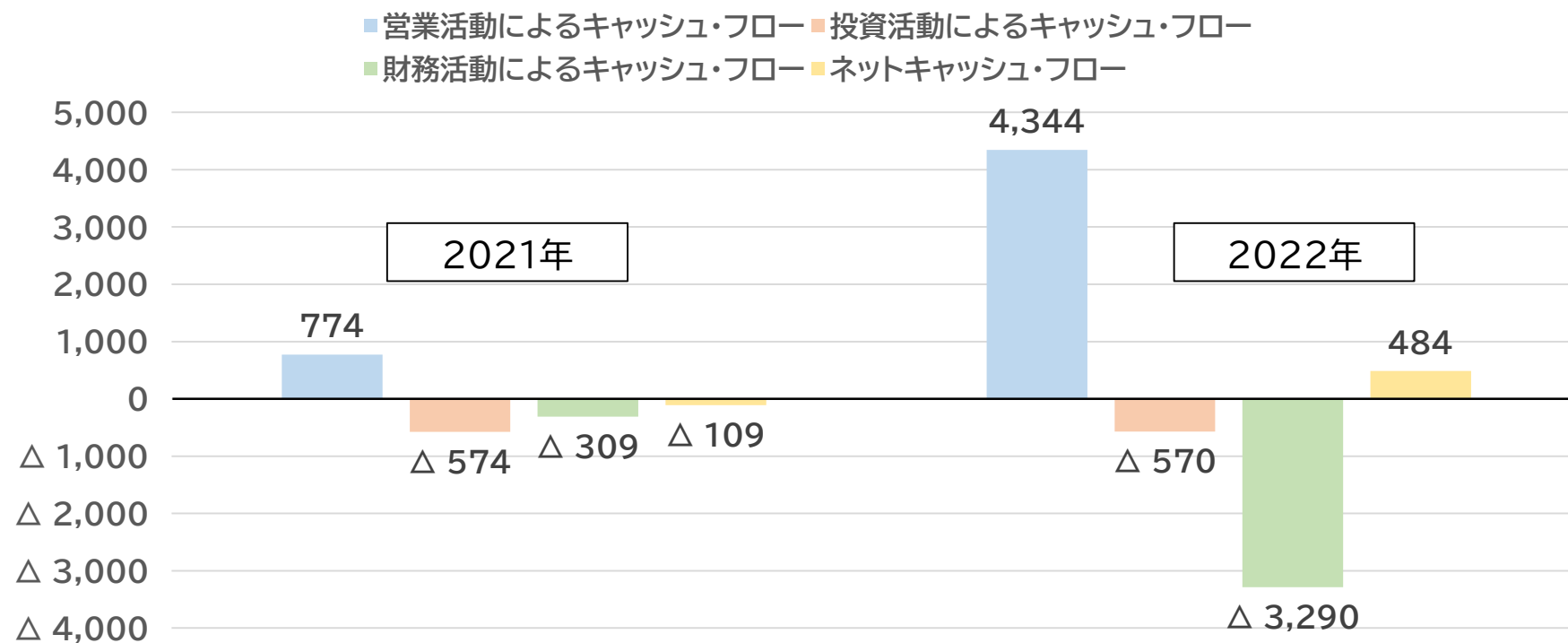
	前期末 (2021年12月末)	当期末 (2022年12月末)	増減
総資産(百万円)	29,863	29,382	△481
純資産(百万円)	10,579	11,337	+758
自己資本比率	34.6%	37.5%	+2.9
1株当たり純資産(円)	6,376.81	6,804.36	+427.55

(参考)自己資本:2021年12月末 10,332百万円、2022年12月末 11,024百万円。

決算ハイライト (C/F)

単位：百万円

	前期 (2021年)	当期 (2022年)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	774	4,344	+3,570
投資活動によるキャッシュ・フロー	△574	△570	+4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△309	△3,290	△2,981





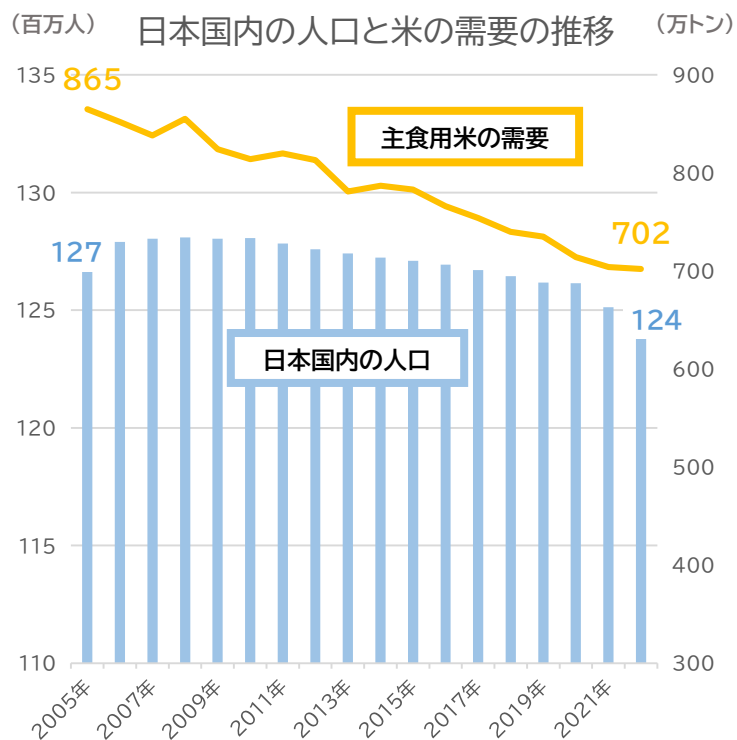
中期3 力年経営計画



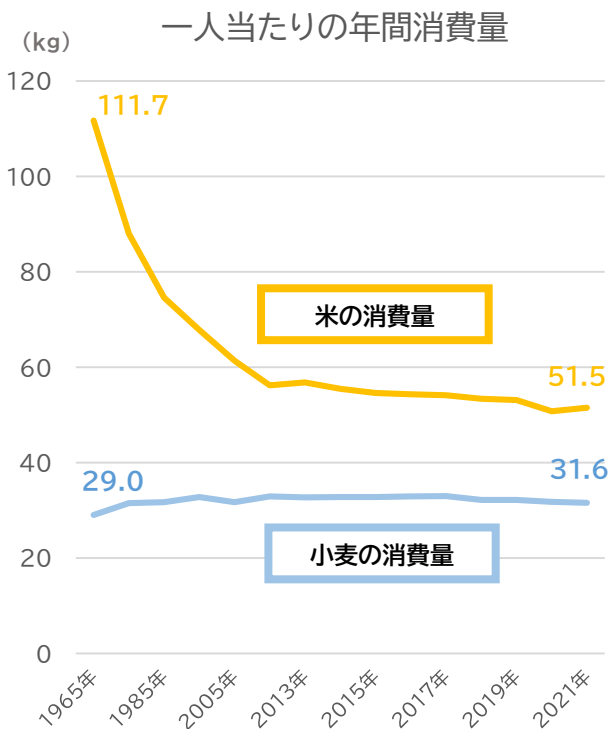
コメビジネスを軸に世界中の消費者に
コメとコメ関連食品の素晴らしさを発信し、
健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。



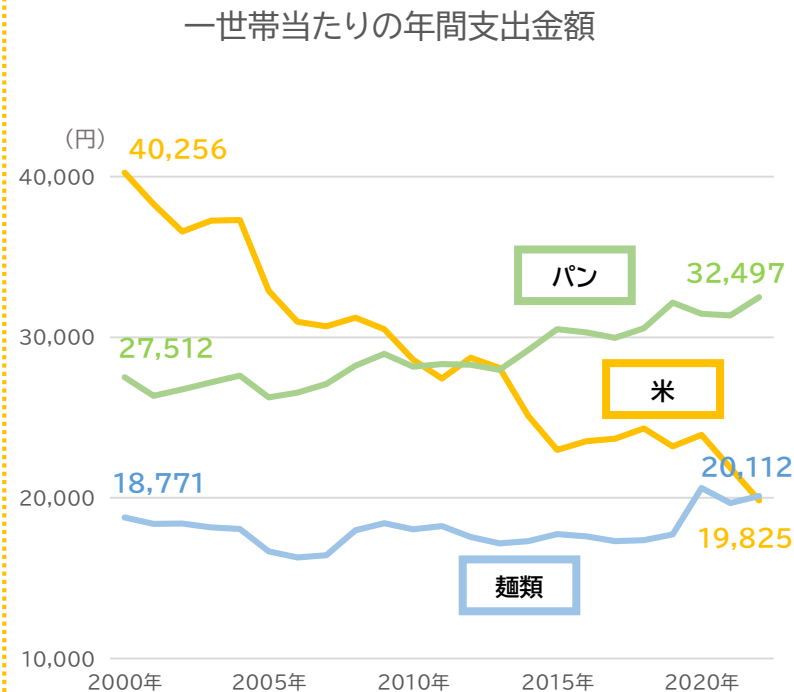
当社を取り巻く経営環境について



出典: World Population Prospectsのデータ及び農林水産省「米をめぐる状況について」のデータを基に当社で作成



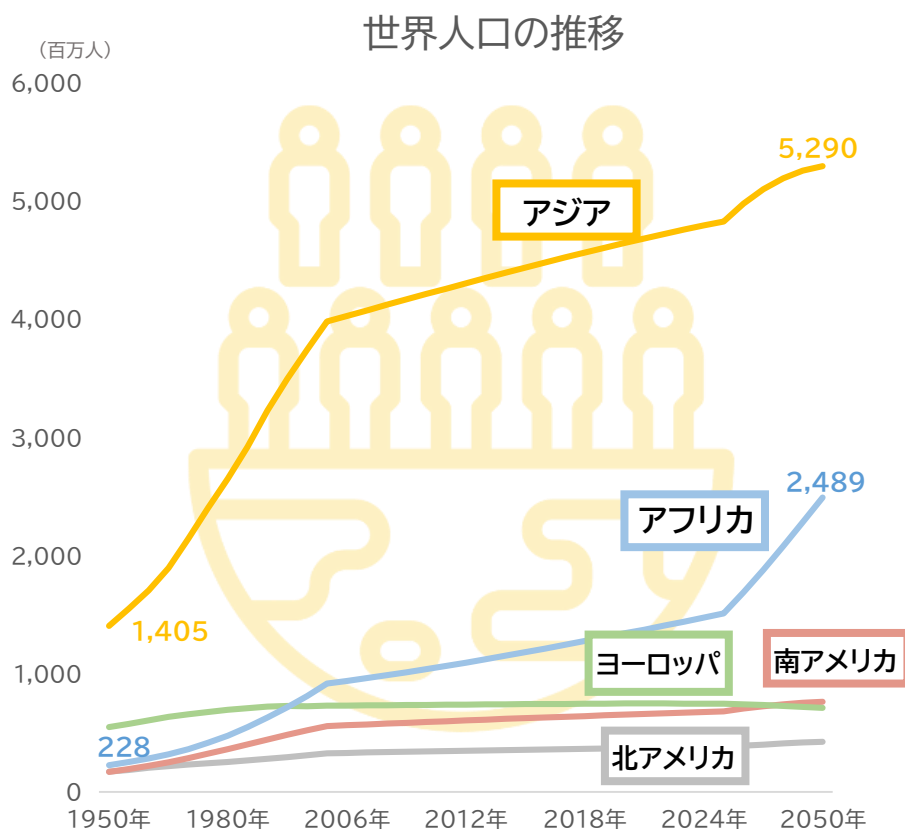
出典: 農林水産省「食料需給表」のデータを基に当社で作成



出典: 総務省統計局e-stat「家計調査 家計収支編 二人以上の世帯」のデータを基に当社で作成

日本国内では人口減少と少子高齢化が加速
国内のコメの消費量は減少の一途を辿る

当社を取り巻く経営環境について



出典: World Population Prospectsのデータを基に当社で作成

アジアとアフリカを中心に世界人口は増加
拡大する市場に向けた販売戦略が必要



環境の課題

- ・気候変動
- ・海洋汚染
- ・生物の多様性確保



社会の課題

- ・少子高齢化
- ・働き方の変化
- ・多様性や公平性



ガバナンスの課題

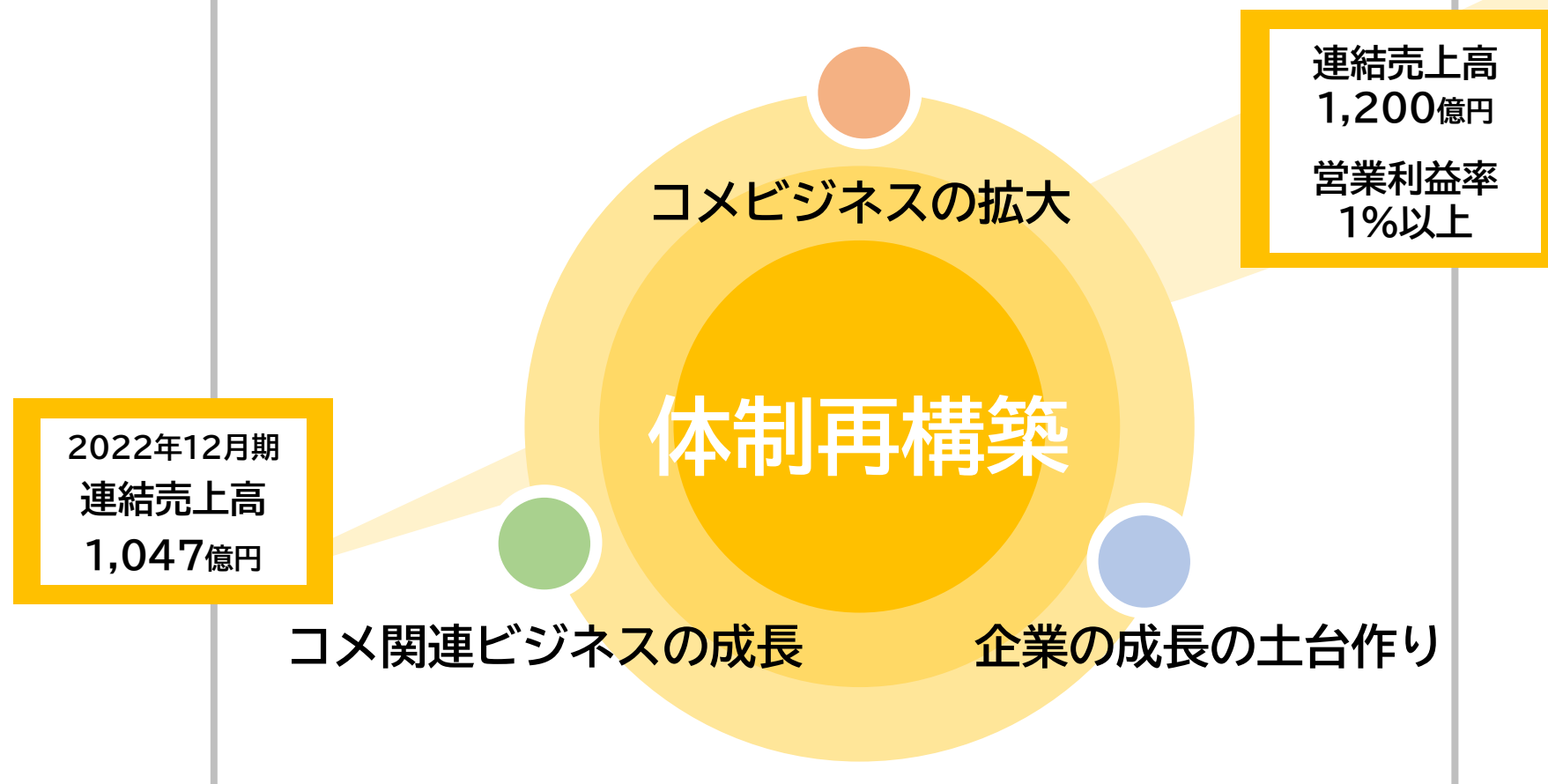
- ・経営の透明性
- ・法令遵守
- ・株主や社員の権利保護

企業は利益を求めだけでなく
社会的責任が重視される時代に

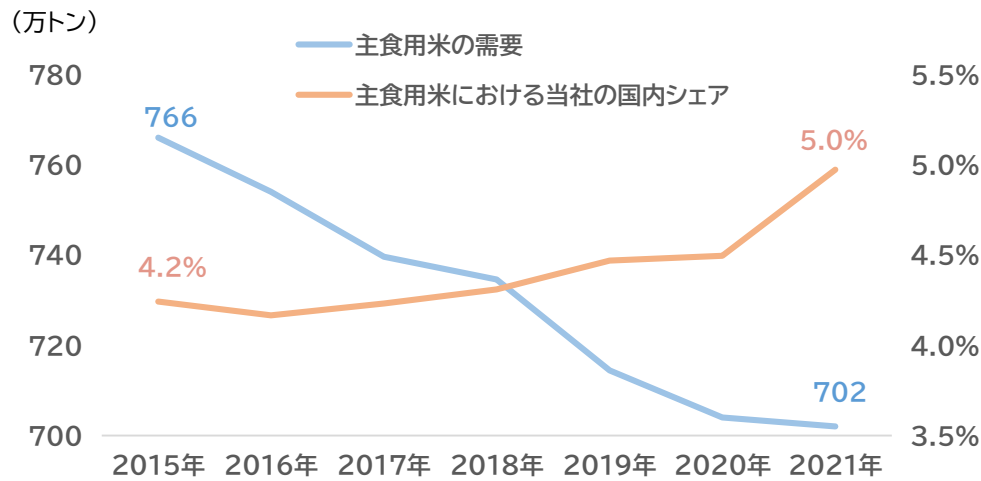


2023年

2025年



事業規模・事業領域の拡大に向けた体制再構築の期間と定義し、
収益体制を作りながら成長を図る



※ 国内シェアの数値は当社調べ

- ◆ 主食用米における当社の国内シェアは拡大するものの、米の市場は年々縮小している
- ◆ 売上規模を拡大するためには、新たな取り組みが必要不可欠

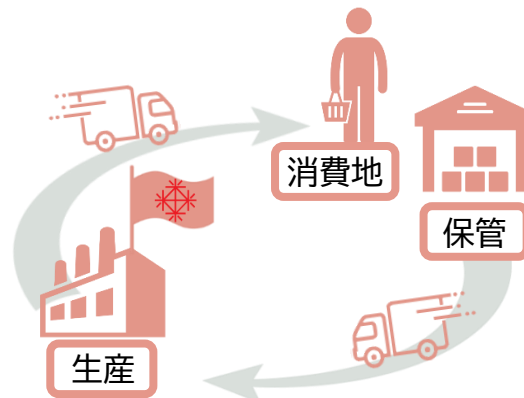
米粉ビジネスの見直し

- ・営業担当が扱う商材を増やし、提案営業力を強化
- ・米粉の新商品を開発



生産・保管・輸送の効率化

エリア戦略を踏まえた効率的な生産・保管・輸送により、競争力の強化を図る



他社との連携強化

同業他社、異業種との連携による領域拡大を推進





需給環境の変化に対応できる仕入体制の整備

- ◆ 安定調達と機動調達を併用し、需給環境に応じた仕入を行う
 - 全農との協力体制の強化、米の再生産に寄与する事前契約の推進
 - 米の需給バランス・価格変動リスクに対応できる体制づくりを継続

- ◆ 関東・北陸エリアにおける多収穫米の調達強化



- ✓ 優れた収量性
- ✓ 良食味
- ✓ 高温や倒伏への耐性

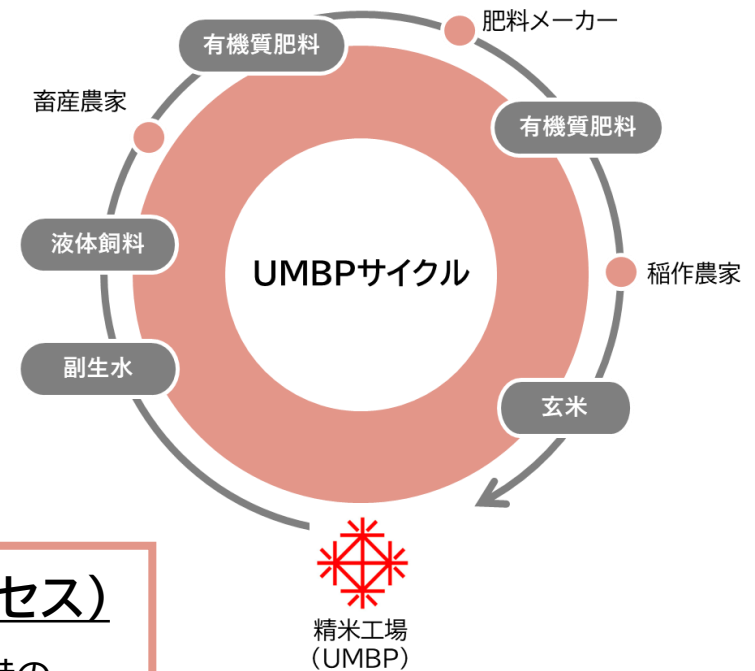
令和6年産では
1万ト規模を目指す

- ◆ 様々な用途に応じた東日本農産(株)の活用



生産

- ◆ 桶川工場・岡山工場から全国の工場へ展開
- ◆ UMBPを利用した商品開発の拡大
- ◆ 加工後に発生する副生水を廃棄物から資源へ



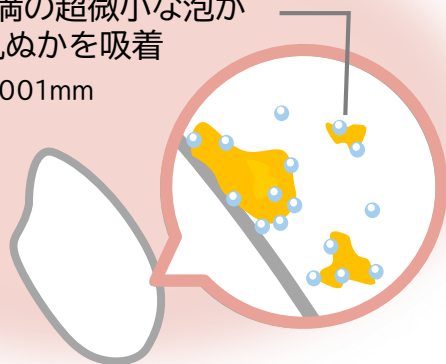
UMBP(ウルトラマイクロバブルプロセス)

お米の表面を傷つけないよう直径 $1\mu\text{m}$ 未満の超微小な泡で米ぬかを取り除く新たな無洗米加工方式

ウルトラマイクロバブルで米ぬかを除去

直径 $1\mu\text{m}$ 未満の超微小な泡が米の表面の肌ぬかを吸着

※ $1\mu\text{m}=0.001\text{mm}$



洗浄水の循環利用による節水効果

洗浄に使ったウルトラマイクロバブルの一部を再利用することで節水効果が期待できる





環境配慮型商品の提案



- ✓ ウルトラマイクロバブルを利用した新しい製法でお米を無洗米に加工
- ✓ 石油資源由来のプラスチックの使用量を削減した米袋を使用

- 美味しさを維持しながら環境負荷とコストの低減が図れるUMBPP(ウルトラマイクロバブルプロセス)による無洗米。
- 従来商品のフィルムと比較して石油資源由来のプラスチックの使用量を約30%削減し、加工方法と包装の両面から環境に配慮した商品。

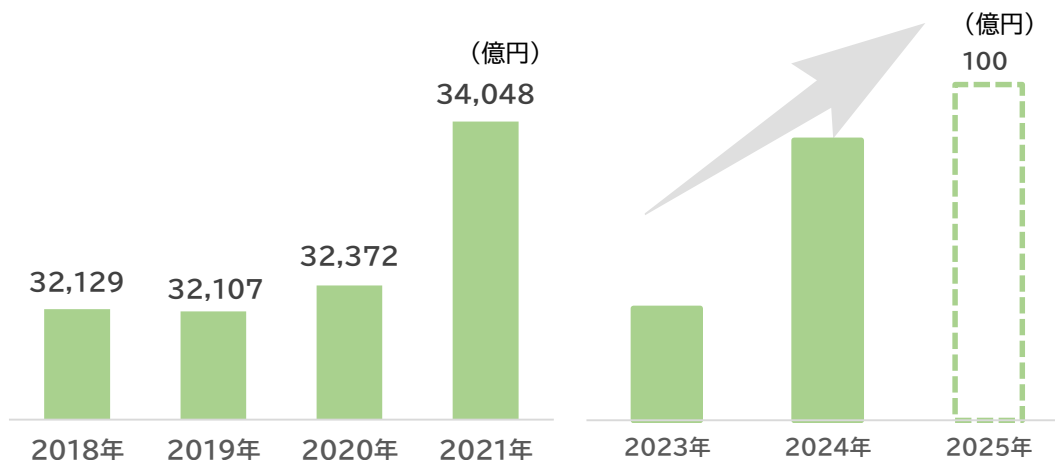


飼料事業の更なる成長

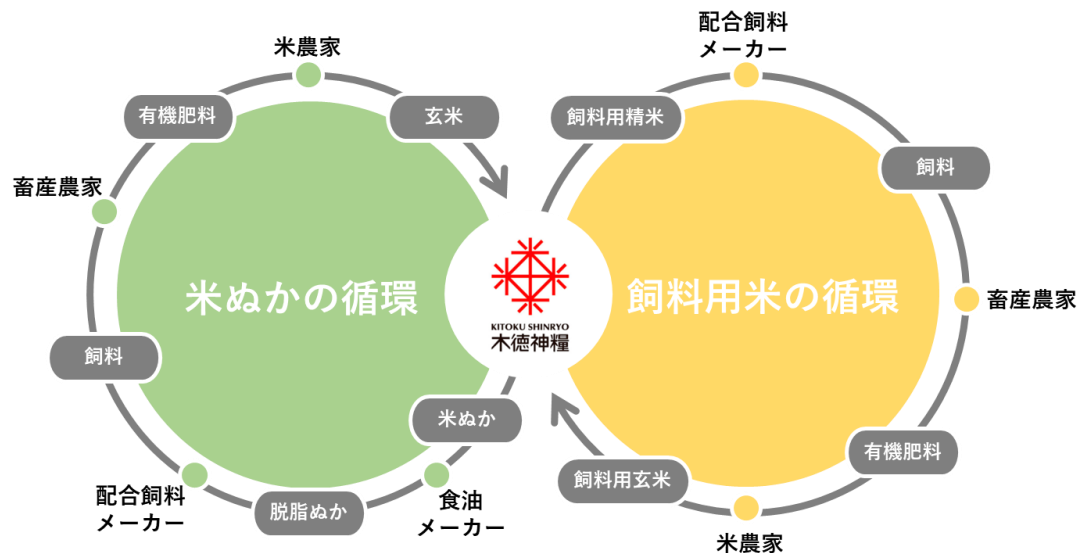
畜産市場は伸長傾向にあり、ニーズに合った提案が求められる。

- ◆ 北海道・九州の肉用牛・乳用牛の飼育頭数が増加
 - 両地区における販売拡大のチャンス

畜産総産出額

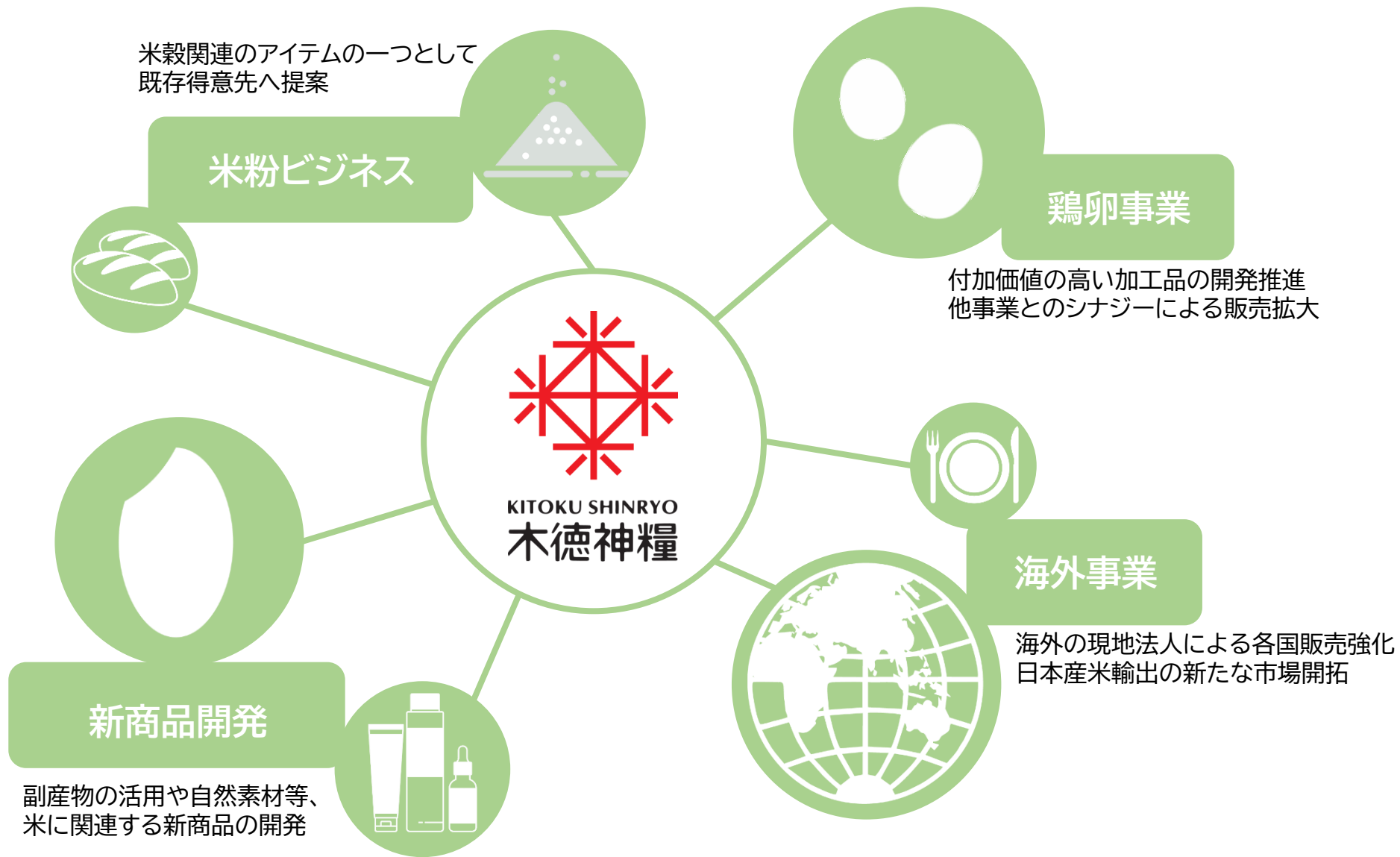


出典：農林水産省「令和3年農業総産出額及び生産農業所得」



循環型ビジネスの推進

- ◆ 生産者やメーカーと協働して米ぬか及び飼料用米の取り扱いを強化
- ◆ 自社精米工場が発生する副産物の有効利用



木徳神糧グループ全体の経営資源を有効活用

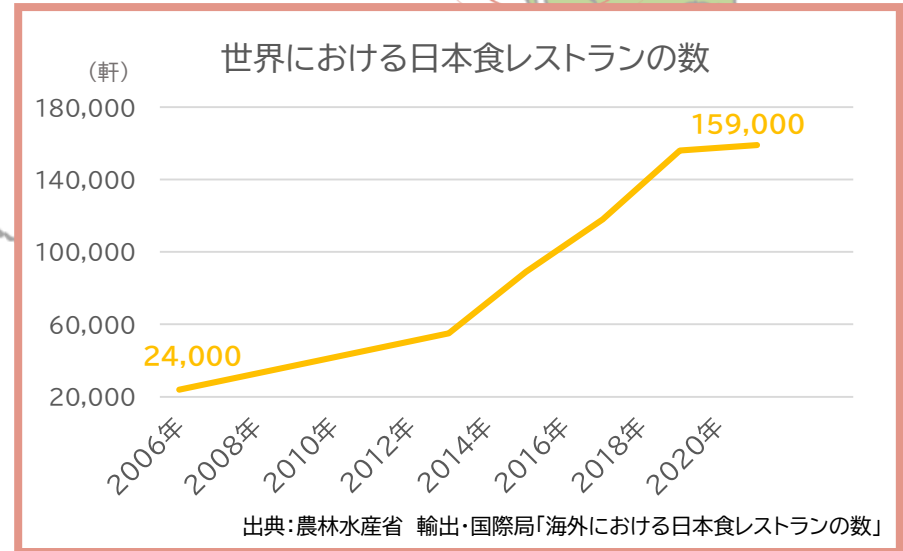


世界有数の食料輸入大国である中国市場
現地法人を活用し、華南地区への販売拡大と
新規顧客の開拓に注力



日本・ベトナムの生産拠点から
成長する市場に向けて販売を強化

日本食の需要が着実に高まる欧州
欧州規格に対応した商品の製販体制を構築





徹底的な業務の
効率化と合理化を推進



組織改革を伴う
全社的な業務の合理化・効率化を
積極的に推進

人的資本への投資強化による
企業と従業員の相乗効果を発揮



従業員が精一杯働ける環境を作り、
会社への愛着とモチベーションを向上

社会貢献活動「お米で社会に恩返し」



こども食堂に無洗米を支援



こどもたちにお米をお腹いっぱい食べてもらうことが
将来の消費拡大につながる

社会貢献活動「お米で社会に恩返し」



岡山県瀬戸内市の学校給食にお米を支援



瀬戸内市が2022年10月より開始した学校給食に
地場産物を供給し、給食の地産地消を推進するプロジェクト。

2023年4月より1年間、瀬戸内市で栽培された「朝日」米を、
市内の学校給食向けに約30精米ト支援。

地場産米を食べるという経験を通じて地域農業への愛着を
持ってもらうことが地域農業の活性化につながる

中期3力年計画（連結数値目標）

単位：百万円

	2023年	2024年	2023年対比	2025年	2023年対比
売上高	112,000	117,000	104.5%	120,000	107.1%
営業利益	1,000	1,100	110.0%	1,250	125.0%
経常利益	1,100	1,200	109.1%	1,300	118.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	700	850	121.4%	1,000	142.9%



注意事項

本資料は、会社情報、経営計画、連結業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。

本資料は、2023年2月27日現在のデータに基づき作成しております。

【お問い合わせ先】

木徳神糧株式会社 社長室

TEL:03-3233-5125 Email:ir@kitoku-shinryo.co.jp

URL <https://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

